

634号	東部地域畜産経営技術推進指導協議会 富山県東部家畜保健衛生所	西部地域畜産経営技術推進指導協議会 富山県西部家畜保健衛生所	2022.3.10
☆飼養衛生管理基準ガイドブックが出そろいました		1 ☆畜産現場における体外受精卵生産技術 ☆富山県農業振興賞畜産部門に竹田満裕さん	4
☆衛生管理の再点検で高病原性鳥インフルエンザに対する防疫強化を！ ☆春に向けて豚熱対策の強化を！		2 ☆養鶏場で活躍する若い社員さんに聞きました	5
☆令和3年度家畜衛生技術検討会について ☆肉用牛肥育農場の疾病対策 ～冬から春～		3 ☆防疫情報 ☆北陸三県和牛子牛市場開催される ☆お知らせ	6

## 飼養衛生管理基準ガイドブックが出そろいました



牛、水牛、鹿、めん羊、山羊編  
9.5MB



豚、いのしし編  
22.0MB



鶏その他家きん編  
6.3MB



馬編  
8.7MB

飼養衛生管理基準ガイドブックは、(公社)中央畜産会が作成(豚編以外)し全国に配布されています。もともと文章だけで味気ない「飼養衛生管理基準」ですが、ガイドブックでは全ページがカラーで、マンガや図をふんだんに取り入れており、大変読みやすいものになっています。

これまで、「鶏その他家きん編」と「豚、いのしし編」のみのラインナップでしたが、このたび「牛、水牛、鹿、めん羊、山羊編」と「馬編」が完成し、当所に届きました。本県では、農場で十分活用していただけるよう、順次できるだけ直接お渡ししていますので、お手元に届きましたら、従業員の皆さんにも読んでいただきますようお願いいたします。

なお、このガイドブックは(公社)中央畜産会または農林水産省のウェブサイトからダウンロードでき、上記 QR コードからスマホ、タブレットでもご覧いただけます。

(西部家保環境課 神吉課長)

# 衛生管理の再点検で高病原性鳥インフルエンザに対する防衛強化を！

高病原性鳥インフルエンザ(以下、HPAI)が2月に岩手県久慈市の肉用鶏農場において確認されました。岩手県は過去に発生が無く、初の発生となります。これにより、これまで10県で16事例の発生が確認されたこととなります。国内各地の野鳥等からもHPAIウイルスが複数例確認されており、2月は北海道を中心に32例が確認されています(令和4年3月4日現在)。また、韓国や欧州等においても継続的に家きんや野鳥においてHPAIの発生が確認されていることから、全国的にHPAIの発生リスクが極めて高い状況が継続しています。

これまでの発生事例においては、農場周辺・農場内に野鳥の集まる可能性がある水場や河川等が多く確認されている他、山林に位置する農場でも発生事例があることから、農場周囲・家きん舎のすぐ近くにウイルスが迫っていることを再認識し、全従業員一人一人がウイルスを持ち込まない、持ち込ませないという強い意志を持って日々の飼養管理に当たることが重要です。

これまでのHPAIの発生にかかる疫学調査チーム検討会の概要が農林水産省のホームページ上で公開されています(下記QRコード参照)。本ページには、発生概要や次のような現地の写真が掲載されている他、現地調査に基づいた衛生対策の実施状況や農場への侵入要因の検討について記載されています。



ロールカーテンの破損



壁面のラットサイン



農水省:疫学調査の概要

(出典：農林水産省 HP)

また、これまでの発生事例に係る疫学調査チームの現地調査報告概要についても農林水産省のホームページに公開されています。発生事例を参考に、自農場の衛生管理の再点検や改善に役立てていただき、HPAIウイルスの侵入防止に万全を期してください。

県内養鶏農家の皆様においては、鶏舎周囲への定期的な消石灰散布、出入りする車両や関係者の消毒の再徹底、防鳥ネットや鶏舎の破損箇所等の点検・修理等、衛生管理の徹底を改めてお願い致します。また、飼養鶏の異状を発見した際には、速やかに管轄の家畜保健衛生所まで連絡していただきますようお願いいたします。

**こんな症状を確認したら、速やかに家畜保健衛生所に通報を！**

**通報及び出荷・移動の自粛をお願いします！**

- ① 同一の家きん舎内において、1日の死亡率が当日から遡って21日間における平均の死亡率の2倍になっている場合
- ② 鶏冠、肉垂等のチアノーゼ、沈うつ、産卵率の低下等の症状を呈している場合
- ③ 5羽以上がまとまって死亡又はまとまってうずくまっている場合



(飼養衛生管理基準ガイドブックより)

(西部家保防疫課 小林獣医師)

## 春に向けて豚熱対策の強化を！

現在新型コロナウイルス感染症対策として実施されている入国制限措置が今後緩和されることや、まん延防止等重点措置が一部地域で解除されることにより、人流が増加し、山に入る人も増えることが予想されます。さらに、これから気温が上昇し、雪解けが進むと野生いのししの行動範囲が広がり、豚熱ウイルスが拡散されるおそれがあります。現に、去年は4月に4事例が発生するなど、春に発生が集中しています。つきましては、次の2点に留意いただくようお願いします。

### 1 飼養衛生管理の徹底

車両・物や畜舎周囲の消毒、長靴や衣服の交換・消毒による衛生管理区域への病原体の持ち込み防止の徹底、毎日の健康観察、野生動物の侵入防止等を改めて徹底する。特に、重要なポイントとして指摘されている離乳豚舎について、免疫のない豚群で特に感染が起りやすいことを念頭に、豚舎にウイルスを持ち込まない対策をする。野生いのししにおける豚熱は25都府県で確認されており、農場にウイルスが侵入している可能性を踏まえた対策を行う。

### 2 早期発見・早期通報

発熱、耳翼の紫斑、食欲不振等の豚熱の特定症状を呈している豚を発見したときは、速やかに家保へ連絡する。



豚熱感染野生いのしし発見状況

(西部家保環境課 神吉課長)

# 令和3年度家畜衛生技術検討会について

2月25日（東部家保）及び3月2日（西部家保）に計画されていた令和3年度家畜衛生技術検討会は、2年続けて新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みて中止することとしました。資料は関係機関に配布し情報共有させていただきますが、本記事でも概要を述べたいと思います。

高病原性鳥インフルエンザについては、本年度は令和3年11月10日から令和4年2月28日までに秋田県、鹿児島県、兵庫県、熊本県、千葉県、埼玉県、広島県、青森県、愛媛県及び岩手県の計10県16事例の養鶏場での発生が確認されています。分離ウイルスの特徴として国内1例目と3例目ではH5N8亜型、その他の事例ではH5N1亜型が分離されていて、国内に複数の系統のウイルスが侵入していることが確認されています。また野鳥からは1道1府4県から38事例の高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されており、未だ国内発生の危険が去っていないことを示唆しています。

豚熱については平成30年9月に岐阜県において我が国で26年ぶりとなる発生が確認されて以来、16県で76事例の発生があり、令和4年1月27日現在、146農場と5と畜場で約28万頭が殺処分されています。今年度においても、宮城県、群馬県、三重県、滋賀県等7県で13事例の発生があり、44農場1と畜場で約10万頭が殺処分対象となっています。

本県においては令和2年10月以降、豚熱に感染した野生いのししは確認されていませんが、豚熱感染いのししは宮城県及び山形県を北限とし、和歌山県及び兵庫県を西端とした本州25都府県の広範囲で確認されていること、ワクチン接種農場でも発生していることから、依然として最大限に警戒すべき状況であると考えられます。

今後も最新の情報提供に努めるとともに、市町村及び関係機関と密な連携を保ちながら家畜伝染病の防疫等の家畜衛生技術の向上に取り組んでいきたいと考えています。

（西部家保 池上次長）

## 肉用牛肥育農場の疾病対策 ～冬から春～

この時期肥育牛によく起きる疾病を感染症とそれ以外に分けて説明します。

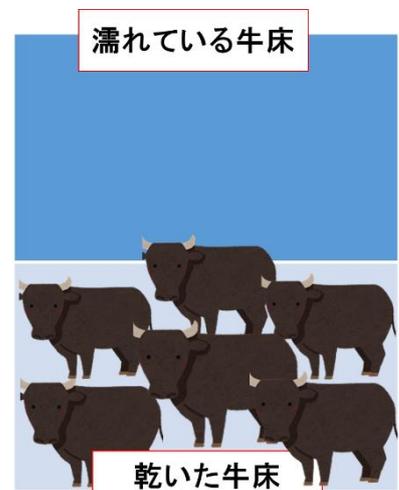
### 1 病原体による感染症

主に問題となるのは、コクシジウムによる下痢、クロストリジウム・パーフリンゲンスなどの細菌感染による突然死、細菌やウイルスによる呼吸器病です。コクシジウムやクロストリジウム・パーフリンゲンスは常在していることが多く、免疫力の低下が引き金となって発症します。腸内環境の急変を防ぐためにも飼料の切り替えは徐々に行い、敷料を清潔に保ち、ストレスの少ない環境を整えて牛自身の抵抗力を高めるようにしてください。また牛を導入するにあたっては、牛房の消毒や敷料の交換はもちろん、一定期間は隔離できるようにし、ワクチンの接種やビタミン剤を投与することで、導入してきた牛の呼吸器病を予防し、牛群全体に拡がらないようにしましょう。感染症の予防の基本は、病原体を衛生管理区域内に持ち込まない・拡げない・持ち出さないことです。

### 2 感染症以外の疾病

この時期、特に注意したいのが“尿石症”です。1月号の衛生情報でも乳牛の飲水の注意点等について触れましたが、肉牛においても冬場の飲水量の不足は重大な問題を引き起こします。牛も人間と同じように寒い時期には冷たい水をあまり飲みたがりません。水分が不足することにより、尿が結晶化されやすくなります。暖かくなって一気に飲水量が増えることで、結石が尿道に降りて詰まる原因となりますので、これからの時期は注意してください。

また、寒い時期の子牛はヒーターやカーフジャケット、ネックウオーマーで保温しますが、肥育牛でも冷えは大敵です！乾いた敷料の区域と濡れた敷料の区域があった場合、牛たちは多少密になっても乾いた敷料のある方で過ごします（右図）。不快な環境下ではくつろげず、ストレスを感じ、免疫機能が低下することで病原微生物が体内に侵入しやすくなります。頻りに敷料を交換することが難しい時は、新しい敷料に石灰を混ぜて足し、常に乾いた環境で過ごせるようにしましょう。（富山県肉用牛協会全体研修会より）



（西部家保防疫課 増永主任）

# 畜産現場における体外受精卵生産技術

2月21日（月）に開催された令和3年度畜産・酪農生産力強化対策事業に係る肉用牛繁殖技術シンポジウムの中から、和牛子牛の供給手段として普及してきている、体外受精卵生産技術について紹介します。

## 1 和牛繁殖雌牛の動向

和牛繁殖雌牛の頭数は、平成22年の66万4千頭をピークに平成27年には58万頭まで減少し、和牛子牛平均価格は平成24年以降高騰しています。こうした中、和牛子牛の供給手段として重要性を増しているのが、乳牛を借り腹とした受精卵移植(ET)による子牛生産です。ETに用いる受精卵は、その生産手段によって体内受精卵と体外受精卵の2種類に分けることができ、受精卵の生産方法として一般的なのが過剰排卵処置による体内受精卵の作製です。しかし、体内受精卵を作製するためには発情周期が正常である繁殖雌牛を活用する必要があり、短期間に繰り返し採卵することはできないという問題があります。そのため、近年は体外受精卵を用いたETが増加しています。

## 2 体外受精卵の生産

体外受精卵は、繁殖雌牛の卵巣から卵子を体外に取り出して、受精能力を獲得させた精子液中で数時間処理し、さらに培養液中で1週間程度育てた受精卵です。体外受精卵の作製の利点は次のとおりです。

	体内受精卵の生産	体外受精卵の生産
ホルモン処置	複数回のホルモン剤投与が必須	ホルモン剤投与は必須ではない
連続採卵	2ヶ月以上の間隔が必要	週1回の頻度でも可能
繁殖障害牛や肥育中の和牛からの受精卵の生産	移植可能な正常受精卵を生産することは難しい	移植可能な正常受精卵を生産できる
妊娠牛への適用	適用できない	妊娠90日頃まで受精卵の生産が可能

また、凍結した体外受精卵は受胎率が低く、過大子になる可能性がある等の問題がありましたが、近年では凍結方法及び培養液の改良によって改善してきており、畜産現場でも普及してきています。一方課題としては、体外受精卵の生産に必要な機器の整備や、技術者の養成が必要です。

(西部家保環境課 田知主任)

# 富山県農業振興賞畜産部門に竹田満裕さん

今年度の富山県農業振興賞の受賞者が決定し、畜産部門では富山市の竹田満裕さんが受賞しました。この賞は農業生産の振興を図るため、県内の優秀な農業者等を表彰するものとして制定され、今年度で56回目となる伝統と実績のある農業部門の表彰制度です。

竹田満裕さんは、平成15年に、実父から酪農経営を引き継ぎ、現在まで安定した経営を継続されています。近年、積極的に規模拡大され、飼養頭数は当初、乳用牛約60頭でしたが、現在は県内では大規模な約110頭にまで発展されました。

竹田さんは、自ら組合長を務め、近隣の酪農家3戸による（農）南部地力増強組合を運営、家畜排せつ物の堆肥化と農地還元に取り組み、地元の地力増強に大きく貢献しました。また、自給飼料の生産にも取り組み、稲WCS(5ha)を生産、飼料自給率の向上に加え、水田フル活用にも貢献しています。

最近では、スマート農業技術を導入した牛の繁殖成績の向上と省力化にも取り組んだり、希少価値の高い乳用牛であるジャージー種約25頭を飼養し、ジャージー種の牛乳、ジェラートの商品化に挑戦したりしており、加工業者との打合せ、竹田牧場のHP開設(右記QRコード参照)、SNSによる発信等の準備を進めています。

また、地元の幼稚園の見学受入や、雇用における農福連携への貢献など、地元可愛らしい魅力ある酪農業を目指して日々努力されています。

こうした経営内容、地域での貢献等から審査した結果、竹田さんはたゆまぬ努力と旺盛な向上心をもって乳用牛の飼養管理技術や生産性の向上に努め、優秀な成果をおさめたと認められたため、本賞に該当するものと決定されました。

2月15日に表彰式が執り行われ、新田知事から表彰状が授与されました。

(広域普及指導センター 五箇副主幹普及指導員)



授賞式での記念撮影



竹田牧場 HP

## 養鶏場で活躍する若い社員さんにお話を聞きました

南砺市の「床鍋養鶏南砺農場」で、農場を支える若い社員の皆さんに養鶏の仕事について聞きました。インタビューに答えてくださったのは、入社5年目の青木優さん、4年目の柳川壱智さん、1年目の中屋瑞希さん、村上雪絵さん、長康修さんの5名の方々です。

**この仕事のいいところ、やりがいをおしえてください。**

青木さん：かわいい鶏を毎日観察できるところがいいです。

柳川さん：育雛を担当していた時、自分が育てたひなが順調に育って安定して卵を産んでいると、やりがいを感じました。

**仕事でたいへんだと思うことはありますか？**

柳川さん：典型的な3Kだと思います。ほこりや石灰が髪の毛につくのでとても気を使います。

青木さん：ほこりは本当につらいですが、生き物を扱う職場で働くからには仕方ないと覚悟していました。

**今の仕事に興味を持ったきっかけは何ですか？**

中屋さん：もともと動物が好きでした。農業高校の授業で養鶏を学びましたが、その時は特に興味が沸きませんでした。でも課外活動で鶏を育てて卵の販売までを行う経験をしてから、養鶏に興味を持ちました。

青木さん：私も動物が好きで、高校では自然科学コースに進みました。大学では文系の勉強をしましたが、やはり生きものにかかわりたいと思い、この仕事を選びました。

柳川さん：私は農業高校の先生の勧めで養鶏場での研修を受けて興味を持ちました。

**会社のアピールポイントは？**

青木さん：みんな鶏を大事に扱っていると思います。大切に作った卵を売っています。

柳川さん：エサにもこだわっています。目的に応じたエサを自社で配合し、生産しているため、与えるエサの違いによって卵の種類がたくさんあります。健康志向の人に向けた卵なども作っています。

**会社に対して要望はありますか？**

柳川さん：会社は海外への卵の輸出にも力を入れているので、鶏舎や従業員を増やして、大企業並みの規模になったら給料もアップすると期待しています。

青木さん：会社が大きくなると隅々まで目が行き届かなくなりそう…。

**個人的な目標はありますか？**

村上さん：GPセンターで働いてきた経験から、「タマリエ検定」を受けたいと思っています。タマリエというのはタマゴのソムリエのことです。たまごについての知識に応じて「一ツ星・三ツ星・五ツ星」の資格を取得できます。

**鳥インフルエンザ対策ではどのようなところに気を付けていますか？**

青木さん：靴の履き替え、石灰散布、踏み込み消毒槽での消毒など、みんな気を付けて行っています。

大規模化への思いを語ってくれる方、今の規模で鶏を大切にしていきたいという方、理想はそれぞれ違っても、「生き物が好き」という共通の気持ちで仕事環境の厳しさを乗り越え、一丸となって会社を支えているようでした。畜産離れの進む昨今ですが、学生時代の養鶏の実体験が今の仕事につながったと伺い、畜産とのリアルなふれあいの機会が、畜産業への理解や新たな雇用に結びつくことを再認識しました。家畜衛生にもしっかり取り組んでいて、頼もしく感じました。

長さんは今年入社したばかりで質問に答えづらいようでしたが、笑顔で皆さんの話にうなずいていました。5名の方々、農場長さん、ご協力ありがとうございました。

家で飼っている生き物…青木さん：ラット、柳川さん：熱帯魚、中屋さん：ハムスター、村上さん：メダカ、長さん：牛

(西部家保環境課 神吉課長)



同窓(県立中央農業高校出身)の3名  
(左から柳川さん、長さん、中屋さん)

# 防疫情報

## 全国の主な家畜伝染病の発生

高病原性鳥インフルエンザ（法定伝染病）

（2月25日現在）

事例	発生日	発生場所	経営形態	飼養羽数	血清型
16	2月12日	岩手県久慈市	肉用鶏	4.5万羽	H5N1

## 県内の主な家畜伝染性疾患の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
牛RSウイルス病と牛パラインフルエンザと牛マイコプラズマ肺炎	牛	1月27日	1	1	
牛ロタウイルス病		2月2日	1	1	
牛ロタウイルス病		2月7日	1	3	
牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症		2月11日	1	1	
牛ロタウイルス病		2月21日	2	2	
牛ロタウイルス病と牛コロナウイルス病		2月21日	1	1	
牛ロタウイルス病と牛トロウイルス病		2月21日	1	2	
牛ロタウイルス病		2月23日	1	1	
豚丹毒（届出伝染病）	豚	1月27日	1	1	と場発見
		2月3日	1	1	
		2月9日	1	1	
		2月16日	1	1	
		2月17日	1	1	
山羊の消化管内線虫症	山羊	2月6日	1	1	

## 国内の野鳥等からの高病原性及び低病原性鳥インフルエンザウイルスの検出

（3月4日現在）

事例	検体回収日	検体回収場所	種名	病原性	血清型
25～59 35事例	2月2日～ 3月1日	北海道根室市、えりも町、標津町、斜里町、羅臼町、利尻富士町、礼文町 岩手県久慈市 福島県二本松市	ハシブトガラス オジロワシ オオハクチョウ マガモ マガン ノスリ トビ カルガモ	19検体：高病原性 16検体：検査実施中	18検体：H5N1 1検体：NA亜型判定不能 16検体：検査実施中

## 北陸三県和牛子牛市場開催される

2月24日、金沢市の北陸三県家畜市場において、今年度最後となる和牛子牛市場が開催されました。今回は去勢90頭、雌56頭の計146頭の取引が成立し、富山県からの出品牛は去勢21頭、雌16頭の計37頭でした。平均価格は去勢で639千円（661千円）、雌で568千円（587千円）であり、全体では611千円（627千円）でした。（ ）内は前回の12月市場における価格。

また、本市場の年度別の取引頭数はH30年度777頭、R1年度836頭、R2年度847頭、R3年度945頭でした。乳牛への和牛受精卵を用いた受精卵移植(ET)が普及したことで、ET産子が増加し、和牛子牛市場出荷頭数が年々増加していると考えられます。

（西部家保環境課 田知主任）

発行所	富山県東部家畜保健衛生所	<a href="http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/">http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/</a>
	〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6	電話(076)479-1106 FAX(076)479-1140
編集者	神吉 武（富山県西部家畜保健衛生所）	